

凍霜害に対する農作物の技術対策について

令和3年4月11日
農業技術課

1 作物

(1) 麦

- ・生育は平年より7日程度進んでいるとみられるため、生育状況を確認し、適期に遅れないように止葉展開期追肥を実施する。
- ・幼穂の褐変等の被害発生状況を確認し、被害発生穂率が高い場合には、止葉展開期の追肥量を被害状況に応じて減肥する。
- ・黒節病の発生が懸念されるため、特に採種ほ場においては経過を観察し、発病が見られた場合には防除を行う。
- ・生育が前進し幼穂が凍霜害に遭遇すると出穂期がバラつくため、開花期の赤かび病及び赤さび病防除について適期を逃さないように実施する。

2 果樹

(1) 全般

- ・凍霜害の発生状況は、品目・品種・生育ステージにより異なるので、園地ごとに被害発生状況をよく確認し対応する。

(2) りんご

- ・被害状況を確認し、可能な限り人工受粉を行って結実確保を図る。

(3) なし

- ・被害状況を確認し、可能な限り人工受粉を行って結実確保を図る。
- ・花の子房部分を解体し、胚珠が褐変していないか確認し、残したい番花（2～4番花）の被害状況を確認する。

ア 人工受粉

- ・人工受粉を複数回実施するなど結実確保につとめる。
- ・雌ずいに障害が発生している可能性があるため、十分な量の花粉を用いて、番果にこだわらず、できるだけ多くの花に人工受粉を行う。場合によっては遅れ花にも受粉する。

(4) もも・核果類

ア 人工受粉

- ・開花中の地域であれば、人工受粉を複数回実施するなど結実確保を図る。
- ・人工受粉を行う品種では、十分な花粉量を確保し、丁寧にかつ繰り返し受粉する。
- ・被害を受けた園は、着果位置にこだわらず、結実確保を優先する。
- ・花粉が不足する場合は、交互受粉を励行する。

イ 摘果作業

- ・摘果作業は、幼果が肥大し結実を確認してから実施する。あんず・すもも・ネクタリンなどはサビ果に注意する。

2 野菜

(1) アスパラガス

- ・被害を受けた若茎は貯蔵養分の消費を防ぐため早めに地際から刈り取り、新芽の発生を促す。
- ・被害が軽度の場合、以後の伸長が悪く商品性の劣る若茎もあるので、経過をみながら刈り取り処分を行う。

(2) スイートコーン

- ・本葉2枚程度までは、生長点が地中にあり被害は少ないが、本葉3～4枚以降の生育ステージでは生長点が地上付近にあり、生長点の壊死を起こしやすい。
- ・本葉に被害を受けた株は数日経過を見て、新葉の動きが見られなければ播き直す。

(3) 葉洋菜類（レタス類、はくさい、ブロッコリー等）

- ・定植後、数日間の株で外葉の枯死が半分以上の場合には植え直しを検討する。被害が軽度の場合は、新葉の伸長程度を見て、追肥管理等を早めに行って生育の回復を図る。

4 特用作物

(1) 茶

- ・被害の程度を見ながら、速効性の窒素質肥料を10a当たり10kg程度施用し樹勢の回復を図る。
- ・被害時期や程度に応じて被害部の整理を行うが、萌芽期～2葉展開期はそのままとし、2葉期以後は被害部を除く程度に軽く整枝する。